



説教	光の体験を語り告げる	渡部 静子	1
教会の課題	主日礼拝のインターネットによるライブ配信について -北海道中会-	中澤 禎	2
新約聖書学への招待	ルカ2章49節の新しい訳 第2回	住谷 真	3
■	旧日本基督教会の草創期—植村正久を中心に(2) 根源的な体験による過去の神からの解放、そして教会へ	崔 炳一	4
目次	教会、この地とともに④ 浦和教会 「教会員」の枠を越えて	松谷 信司	5
■	こいのにあ 主に望みをおく人は新たな力を得…	梅本 隆司	6
	近畿中会伝道協議会に出席して	遠藤 浩美	6
	全国長老交流会報告 牧師依存からの脱却を!	松谷 信司	7
	2019年全国教職者会の報告	富樫 史朗	7
畑 祐喜先生 追悼文	畑祐喜先生の逝去を慎む	多田 滉	8
	教会ニュース		8

光の体験を語り告げる

つまり私は、メシアが苦しみを受け、また、死者の中から最初に復活して、民にも異邦人にも光を語り告げることになると述べたのです。

（使徒言行録26章23節）

わた なべ せい こ
渡 部 静 子

皆さんは、なぜ教会に行くようになったか、なぜクリスチャンになったか、その動機や理由をだれかに聞かれたことがあるでしょう。それはクリスチャン仲間からであったり、未信者の人からであったり、また、個人的にであったり、会合の中で語るということもあったかもしれません。そんな機会が重なる中で、ひとつのストーリーが出来ていき、そこにメッセージが盛り込まれていくこともおこるのではないのでしょうか。

パウロの回心の出来事は使徒言行録の中に3回記されています。最初は9章1節以下で、それはパウロの言葉としてではなく、歴史的な出来事として著者のルカの手によって書かれています。

2回目はエルサレム神殿の境内にいた同胞ユダヤ人たちに対する弁明の中で、パウロ自身が迫害者であった自分がどのようにして回心するに至ったのかを語っています(22章6節以下)。3回目はアグリッパ王の前で語る機会を与えられパウロが自分で語っています(26章12節以下)。アグリッパ王とは、ガリラヤの領主ヘロデ・アグリッパ二世のことで、その場には、王の妹ベルニケ、またローマの千人隊長や町の主だった人々が、ユダヤ駐在のローマの総督フェストゥスの招きを受けて列席していました。

22章と比べると、26章では内容がさらに深められていることがわかります。いくつか違いがある中で、回心の出来事が起こった「とき」に焦点を当ててみましょう。9章では言及されていませんでしたが、22章でのそれは「真昼ごろ」となっています。また9章における「天からの光」という描写は、22章では「天から強い光が」となり、さらに26章では「そ

れは太陽より明るく輝いて」と表現されるのです。つまり、主イエスとの出会いは「太陽より明るく輝く光」に照らされる出来事だったということです。

そしてその「光」という言葉を用いて主イエスが語られたのは、パウロに出会った目的でした。「それは、彼らの目を開いて、闇から光に、サタンからの支配から神に立ち帰らせ」(18節) するためだと言うのです。

天からの強い光の中で、見えなくなったパウロ自身の目をアナニアが開いてくれたように、今度はパウロが盲目となっている選民と異邦人のもとに遣わされ、闇から光に導く者となるのだと告げられたのです。それは「光を語り告げる」(23節) 働きへの召しでありました。光そのものであられる主イエス・キリストを語ることに、その光に照らされた恵みを語ることでありました。

そうしてパウロは、何度自らの回心の出来事を語ったでございましょうか。折があるごとに、繰り返し「小さな者にも大きな者にも証しをしてき」(22節) たのです。そのたびに、パウロは自らに与えられた恵みを確認し、その恵みの大きさに驚き、感謝を深くしたことでありましょう。

一人の姉妹が言いました。「教会の集会で自分の証しをする機会を与えられたことは大変だったけれど、自分自身のこれまでを振り返り、整理し、恵みのあとをたどる機会となり、感謝でした」と。

ルカが、パウロの回心の出来事を簡略化しないで、繰り返し記しているのには意味があるのです。それは語り続けていく中で、キリストの愛の広さ、長さ、深さを新しく覚えるものとされた、その恵みの跡なのです。
(宇都宮松原教会牧師)